

地域のみな様と、私たちをむすぶ広報誌



# 京都中部総合医療センター

## Kyoto Chubu Medical Center



令和6年度 地域医療教育推進事業  
京都府立医科大学医学部、医学科より16名、看護学科より9名の学生に参加いただきました。



### CONTENTS

- 院長挨拶 ..... ①
- 令和6年度 地域医療教育推進事業 ..... ②
- 病院機能紹介 ..... ③

- 診療科紹介 脳神経内科 ..... ⑤
- 赴任医師のご紹介 ..... ⑤
- 令和5年度患者満足度調査 ..... ⑥
- 第26回 京都中部総合医療センター  
学術集会 ..... ⑦

- 京都中部総合医療センター  
看護専門学校 ..... ⑧
- 当院で出産しませんか? ..... ⑨
- 健診センターのご案内 ..... ⑩

地域医療支援病院 紹介受診重点医療機関 臨床研修病院  
救急告示病院 日本医療機能評価機構認定病院  
地域がん診療病院 第二種感染症指定医療機関  
地域周産期母子医療センター へき地医療拠点病院  
京都府地域リハビリテーション支援センター  
京都府災害拠点病院 (地域災害医療センター)  
DMAT 指定医療機関 認知症疾患医療センター  
エイズ拠点病院 京都府難病医療協力病院

### 京都中部総合医療センター

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野25番地  
TEL 0771-42-2510(代) FAX 0771-42-2096

<https://www.kyoto-chubumedc.or.jp>





2024.10

Vol.63

秋号

## 病院の理念

地域の拠点病院として、患者さん中心の良質な医療を行い、地域に愛され信頼される病院を目指す。

## 病院の基本方針

1. 常に患者さんの立場にたち、権利を尊重して適切な医療を行います。
2. 地域医療支援病院として、地域の医療・介護・福祉等と連携しながら、専門診療を推進して地域完結型医療の中心的役割を担います。
3. 第二種感染症指定医療機関として、二類感染症もしくは新型コロナウイルス等感染症に対応した医療を提供します。
4. 救急医療、周産期・小児医療、災害医療を充実させ、いつでも安心して受けられる医療を提供します。
5. 地域がん診療病院として、集学的医療を推進し、高度ながん医療を行います。
6. 働き方改革を推進するとともに、チーム医療を強化し、医療の質・安全性を高めるため、すべての職員の資質向上に努めます。
7. 公営企業としての役割を全うするため、経営効率を高め、健全経営を遂行します。

## 患者さんの権利と責務

私たちは患者さんの権利を尊重し、十分な説明と合意に基づいた医療を行います。

1. 説明を受ける権利
2. 治療を選択する権利
3. 情報を知る権利
4. 個人情報の保護を受ける権利
5. 他の医療機関の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利
6. 自分の健康情報を正確に提供する責務
7. 説明を理解するまで問う責務
8. 病院での規則に従う責務



# 院長挨拶

## 夏の星空に願いを込めて

院長 たつみ てつや 辰巳 哲也



今年も記録的な猛暑が続く夏でしたが、ようやく少しずつ朝夕に涼しさが増し、虫の音とともに秋の訪れが感じられる季節となりました。夏には全国的に米不足となりましたが、近隣の水田では稲刈りも順調に進んでいます。5類感染症へと変更されても、新型コロナウイルス感染症で入院が必要な患者さんや職員の感染が途絶えることはなく、怠りなく警戒を継続する必要性を感じています。

8月24日には京都中部総合医療センター学術集会を集合形式で開催することができました。職員による一般演題の発表8題の後、恩師でもある全国自治体病院協議会名誉会長・全国公私病院連盟会長であるへんみ 公雄先生をお招きして、「いのち生命輝かそう京都中部総合医療センターの仲間達 ～地域医療包括医療・ケアの時代に～」と題した特別講演を賜りました。少子超高齢・人材不足社会における持続可能な医療提供体制へ向けて「新たな地域医療構想」の議論が始まっていますが、へんみ先生には“地域医療における公立病院が果たすべき使命”を改めてお示しいただくとともに、“住民中心の病院づくり”について熱くご講演いただきました。この場をお借りして心から深く感謝を申し上げます。

8月26日から29日は京都府立医科大学医学科の5回生と看護学科の3回生計25名をお預かりして地域医療教育推進事業を行いました。今年には新たな院外実習として二班に分かれて美山町と京丹波町を訪問しました。美山班では南丹みやま診療所と美山やすらぎホームを見学し、難病を抱える美山在住の患者さんを通して地域包括ケアシステムのあり方を学びました。京丹波班では町役場での健康体操教室に参加し、2人の百寿者の方々と交流を通して、健康を大切にする町の取り組みや住民の思いを学びました。

学生の皆さんは当初、“地域医療＝へき地や過疎地での医療・非高度医療”といった固定観念を持っていたようです。しかし、地域医療とは「予防医学から始まり高度医療を含む疾病の診断・治療とともに、退院後の療養に至るまでを包括しながら、医療従事者と地域住民が手を取り合ってより良い地域社会を築いていく活動である」と私は考えています。患者さんがどこで暮らしていようが、住み慣れた地域で安心して生活ができ、その結果、自立した生活を続けることを今後も自らの立ち位置で支えていきたいと思えます。実習を体験した学生たちが患者さんの抱える課題と解決案を真摯に考え、患者さんにとって最も適切な診療方針を決定し、それを実行できる医師・看護師に成長してくれることを願っています。診療所・訪問看護ステーション実習も含めてご協力いただきましたすべての方々とスタッフに心からの感謝を申し上げます。

9月に入り三重県志摩に出かけました。海の幸、山の幸など食材の豊かなことはもちろんでしたが、天候や月の周期にも恵まれて満点の星空を眺めることができました。天の川が地平線近くまで流れる光景と夏の大三角と言われる、はくちょう座のデネブ、わし座のアルタイル（彦星）、こと座のベガ（織姫星）が美しく見えました。北斗七星とカシオペア座から北極星も見つけました。子供の頃に無邪気に探した星座は今も変わりなく輝きを放っていました。地球温暖化に伴う自然災害、不安定な世界情勢に起因する物価高騰が相変わらず続いています。令和6年度診療報酬改定後の病院経営も人件費・材料費・医薬品費・光熱費高騰で誠に厳しい情勢です。持続可能な地域医療を守っていくためにも、この国の社会保障制度について国民に公開された形で議論する機会がもっと増えても良いと願っています。秋はおいしい食材が豊富な季節です。皆さまの秋が爽やかで実り多きものでありますように心よりお祈り申し上げます。

# 令和6年度 地域医療教育推進事業

臨床研修管理委員会副委員長・消化器内科部長 かねまさ ひでとし 金政 秀俊

京都府立医科大学医学科16名、看護学科9名の計25名の学生が来院し、8月26日から4日間、当院で実習をしました。

初日は病院長、副管理者の挨拶と病院紹介から始まり、午後は美山林健センター診療所長の西岡大輔先生による地域医療についての講演と、当院元看護部長のにしおかだいすけ下村加代子様の講演がありました。レセプションにはにしむらりょうへい西村良平南丹市長、地域住民代表としていけがみこういち池上幸一様にご参加いただき、地域医療の現状と展望、当院への期待などを学生に向けて語っていただきました。

2日目は2班に別れ、美山と京丹波町へ赴き院外で実習しました。美山班では南丹みやま診療所での診療を見学。その後、住民の講話を聴きました。午後は、かやぶきの里と高齢者福祉施設の見学をしました。京丹波町班では健康体操教室に参加。午後は100歳を超えて元気に暮らしておられる住民の方との座談会、その後、国保京丹波町病院和知診療所の見学をしました。両班共に、学生が住民の方々と交流できた貴重な時間でした。

3日目には圏内計15の診療所と訪問看護ステーションに学生が赴いて地域医療の現場を見学し、午後からはそこで感じた内容を発表してもらいました。

最終日には当院の看護部、地域医療連携室、訪問看護ステーションからそれぞれの取り組みについて説明があり、最後に当院スタッフと学生で「地域医療とは」をテーマに討論しました。今回の実習を通して、学生が地域医療についてたくさんの事を学んでくれたことが実感できました。

最後に、本実習にご協力いただきました全ての方々に、この場をお借りして御礼申し上げます。



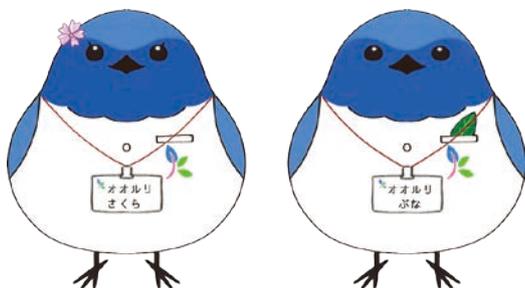
院外実習：美山班



院外実習：京丹波町班

## 看護部キャラクターの紹介

認定看護管理者 やました 山下 さやか  
緩和ケア認定看護師 うすい ひろこ 碓井 寛子



当院看護部のキャラクター「オオルリさくら」と「オオルリぶな」が誕生しました。当院は南丹市に位置しており、南丹市の花「さくら」、木「ぶな」、鳥「オオルリ」にちなんでキャラクターを考案しました。

「オオルリさくら」は頭に南丹市の花であるさくらを飾り、「オオルリぶな」は胸ポケットに南丹市の木であるぶなの葉を入れています。このキャラクターは、美しい声で鳴くオオルリのように、皆さまの幸せを願いながら、心温まる看護を提供するという思いを込めています。

今後、「オオルリさくら」と「オオルリぶな」は様々な活動を通じて、皆さまへのメッセージをお届けする役割を果たしていきます。皆さま、「オオルリさくら」と「オオルリぶな」をどうぞよろしくお願ひいたします。

# 病院機能紹介

当院は地域の中核病院として様々な機能を有しています。  
今回はその中のいくつかをご紹介します。

## 地域がん診療病院

副院長・外科部長 やまおかのぶき  
山岡 延樹

日本人の死因の第1位であり2人に1人が「がん」にかかる時代、身近な病気となったがんへの対策として、全国どこでも標準的で質の高い専門医療を受けられるように、2008年よりがん診療連携拠点病院の指定制度が開始されました。当院も2015年3月、厚生労働大臣から「地域がん診療病院」の指定を受け、南丹医療圏（亀岡市、南丹市、京丹波町）の中で、がんに対する標準治療、集学的治療を中心的に提供できる病院との評価を頂きました。当院では各診療科に学会からの認定を受けた専門医が常勤し、がんの診断・治療に関する知識の集積・手技の向上への研鑽を日々行っております。治療方針の決定に当たっては、診療ガイドラインに基づき、複数の医師が相談したうえで決定することを基本としています。さらにキャンサーボード（専門の異なる医師や多職種によるカンファレンス）を開催、治療に関する多方面からの意見交換を行い、最善の治療の提供を心掛けております。

治療に関する話題では、最新のロボット支援下手術を導入し、積極的かつ安全に取り組んでおります。抗がん剤などを用いた化学療法は近年外来通院で行う比率が増えており、リラックスできる専用ベッドを12床整備、新規薬剤にも対応しています。放射線治療については、2015年10月に放射線治療施設を開設しました。安全性の担保が不可欠な治療であり、第三者機関による品質管理を十分に行い運用しております。治療に加え、がん相談支援センターを設置し、診断から治療その後の療養生活、社会復帰、生活全般にわたって一緒に考え問題を解決できるお手伝いをさせていただきます。



ロボット支援下手術

## 地域周産期母子医療センター

産婦人科部長 つちやひろし  
土屋 宏

当院は京都府の地域周産期母子医療センターに指定されており、スタッフは産婦人科医師（常勤4人・非常勤2人）と助産師9名に加え、6名の待機助産師にもご協力いただき運営しています。

産科外来では、毎回超音波検査を施行して胎児の成長を確認し、異常の早期発見に努め、毎週産婦人科と小児科でのカンファレンスを開いて情報共有しています。

分娩はできるだけ自然分娩を目指しています。そして正常の分娩以外にも合併症のある妊婦の診療も行っています。小児科医師により、妊娠30週以上で胎児の推定体重1,500g以上という大変対応の難しい新生児にも対応しており、このため近隣の産婦人科医院や病院の産婦人科からの母体搬送を受け入れていて、24時間産婦人科医師が常駐し緊急帝王切開を含めた対応をしています。また、妊娠中に異常を認めたり、分娩経過中に異常を認めた場合などに、同様に常駐している小児科医師に立ち会ってもらい、さらに娩出してきて初めて異常を認めた赤ちゃんにも、小児科医師とともに病棟スタッフも新生児蘇生法の講習会を受け対応しています。

当院では、赤ちゃんとお母さんの安全を第一に考え対応していますので、外来でも病棟でもどうぞご相談ください。



## 京都府地域災害拠点病院

DMAT 隊員・救急部長 いわた じょうじ 岩田 譲司

平成7年1月17日に経験した阪神・淡路大震災を受け、平成8年の当時の厚生省通達により、災害拠点病院が整備されることとなりました。災害拠点病院は、大規模災害発生時に多数の傷病者を受け入れるとともに、一般の病院等の後方医療機関として地域の医療機関を支援する機能を有し、災害時の医療救護活動において中心的な役割を担う病院として位置付けられています。

現在、京都府では原則として二次医療圏に少なくとも1ヶ所の災害拠点病院が指定され、当院は南丹医療圏で唯一の災害拠点病院となります。指定要件として、食料、飲料水、医薬品等は、流通を通じて適切に供給されるまで3日分程度を備蓄、発電装置により3～5日程度の自家発電機能を有するなど、BCP（事業継続計画）の考えに基づいた運用が可能であることが求められています。また、DMAT（災害派遣医療チーム）を有しており、定期的に地域の防災訓練、実際の震災においても出務しています。



災害看護教育の一環での病院設備見学

第8次医療計画等に関する検討会においては、新たに止水対策を含む浸水対策についての議論が行われ、この結果、止水板等の設置による止水対策、自家発電機等の電気設備の高所移設、排水ポンプの設置等による浸水対策を講じる指針が示されたため、当院においても新棟建設の際に組み入れる方針です。これからも地域に根差し、地域を守り、地域に愛される拠点病院であり続けたいと思います。

## 京都府地域リハビリテーション支援センター

リハビリテーション科療士長 ひしいけ まさゆき 菱池 正之

地域リハビリテーションとは、「障害を持つ人々や高齢者が住み慣れた環境で、そこに住む人々と共に一生安全に生き生きと生活が送れる」という理念に基づいた、地域を基盤とした全ての活動のことをいいます。病院で行う機能訓練や日常生活動作訓練等がリハビリテーションだと思われがちですが、本来のリハビリテーションとは生活の場で活用されてこそ意味があるものです。障害を持つ人々や高齢者が住み慣れた地域で生活するには多くの課題がありますが、医療・介護・保健・福祉に加え、生活に関わるあらゆる人々が協力し、それぞれの立場から支援する必要があります。



地域の看護・介護職員を対象とした研修会の様子

京都府では、地域リハビリテーション推進の拠点として、二次医療圏ごとに地域リハビリテーション支援センターを配置しており、地域の基幹病院がその役割を担っています。南丹圏域においては、平成23年度から当院が京都府より指定を受けており、府保健所とともに医療機関・介護保険施設・在宅系のサービス事業所等と連携しながら、地域リハビリテーションの推進に努めております。主な活動内容としては、関連機関との連携会議への参加や従事者支援のための訪問相談、看護職や介護職を対象とした研修会の企画等です。

在宅生活に臨むご本人やご家族は、心身状態の急変や介護の負担など、様々な面で不安感を抱えています。こうした不安を払拭するためには、地域のニーズに応じた多様なサービスや支援が一体となり提供されることが必要です。今後も関連機関と連携しながら地域リハビリテーションの推進に努めてまいります。

## 脳神経内科

## Neurology

脳神経内科部長 やまぐち たつゆき 山口 達之

脳神経内科は脳、脊髄、末梢神経、筋肉の疾患の診断とその内科的治療を担当としています。令和6年度の構成メンバー山口 達之（平成8年卒）、五影 昌弘（平成15年卒）、辻 健吾（令和2年卒）、中村 美咲（令和4年卒）の常勤医4名と、非常勤医の小泉 崇（金曜外来担当）の計5名です。脳神経内科は他科と比べるとどのような科なのか分かりにくいようですので、今回は当科の扱う疾患についていくつかお話ししたいと思います。

## ■脳梗塞

当科取扱い疾患での入院患者数は最多です。ただ最近では「超」急性期症例では心筋梗塞のようにカテーテル治療がメインとなってきており、適応例についてはカテーテル治療が可能な病院へ転院搬送となります。

## ■パーキンソン病

ドパミンの不足が原因となって生じる、振戦、筋固縮、動作緩慢などを主な症状とする疾患です。当院ではドパミン神経の変性について評価できるドパミントランスポーターシンチグラフィ検査を行うことができます。

## ■アルツハイマー病

認知症関連疾患のなかで最も有名な疾患です。知能検査による程度の評価や、診断に必要な頭部MRIや脳血流シンチを行っています。最近脳内に溜まったアミロイドβという原因タンパク質を除去することによって症状の進行を直接抑制する注射薬が登場しています。当院ではまだ対応できていないのですが、薬の普及に従って当院でも対応できるようにしたいと考えています。

## ■頭痛

片頭痛に対して注射タイプの予防薬が発売になっており、当院でも取り扱っています。もちろん内服薬によるコントロールもおこなっています。

## ■ギランバレー症候群

感染症などをきっかけにして免疫の働きが異常になり、自身の末梢神経を障害してしまう自己免疫疾患と考えられています。診断に必要な神経伝導検査や、当院には透析施設がありますので血漿交換などの血液浄化療法による治療が可能です。

## ■多発筋炎・筋ジストロフィー

「脳神経内科」ですが筋肉も守備範囲になります。解析は専門施設に依頼していますが、その解析に必要な検体採取つまり筋生検は当院で行っています。

他にも脊髄小脳変性症、てんかん、髄膜炎・脳炎、多発性硬化症・視神経脊髄炎、筋萎縮性側索硬化症（ALS）、重症筋無力症など多数の疾患に対応しています。

日本神経学会認定の神経内科専門医が常駐する施設は南丹医療圏では当院と亀岡病院のみとなっております。この地域での当科の重要性は高いものとなっております。今後もこの専門性を生かした医療を行っていく所存です。



## 赴任医師のご紹介

耳鼻咽喉科医員 たてもと せいし 立本 征士

京都鞍馬口医療センターで2年間研修を行い、その後半年間京都府立医科大学附属病院で勤務しました。南丹地域の医療に貢献できるよう研鑽し、患者さんに寄り添った医療を心掛けて参りたいと思います。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

# 令和5年度患者満足度調査

医療サービス向上に関わる小委員会／看護部長 ますたに てる よ 増谷 照代

当院では、患者さんへのサービス向上を図るため、患者満足度調査を実施しています。

令和5年度の調査結果をご報告します。調査項目は「ご自身のこと」「施設面」「接遇面」「サービス面」「総合評価」となっています。

## 外来部門

外来部門については、2023年10月2日から6日までの期間アンケート調査を実施し、794名の方からご回答いただき、約93%（前年度95%）が南丹市、亀岡市、京丹波町にお住まいの患者さんで、60代から80代の方が全体の7割近くでした。

施設面について「トイレの使いやすさ」「駐車場の使いやすさ」は3割～4割の方が「良くない」と評価されました。トイレについては施設における限界もありますが、引き続き要望にお応えできる範囲で改善に努めて参ります。「駐車場について」は、駐車スペース確保により利用される方々のご不便の改善に努めております。

接遇面については、6割以上の方から「良い」と評価いただきましたが、同時に様々なご意見もいただいております。引き続き職員一同接遇改善に努めて参ります。

サービス面について、「診察での待ち時間」は6割以上の方が長いと評価されました。採血では案内設備の導入や人材の配置及びお待ちいただくにあたり放送にてご案内をさせていただいております。今後コンシェルジュやロボット対応の必要性についてご意見を伺いましたが、回答率も低く不要の評価も目立ちました。地域の皆様には何かと大変ご迷惑おかけして申し訳ございませんがご協力・ご理解の程よろしく申し上げます。

「総合評価」は6割の方が「満足」と評価されましたが、若干前年度より減少しておりました。気を引き締め外来環境改善に取り組んで参ります。

## 入院部門

入院部門については、2023年10月2日から13日までの期間アンケート調査を実施し、135名の方からご回答いただき、昨年度と同様95%が南丹市、亀岡市、京丹波町にお住まいの患者さんで、外来と同様60代から80代の方が全体の7割近くとなり、90代の方が前年度より4%上昇し5%でした。

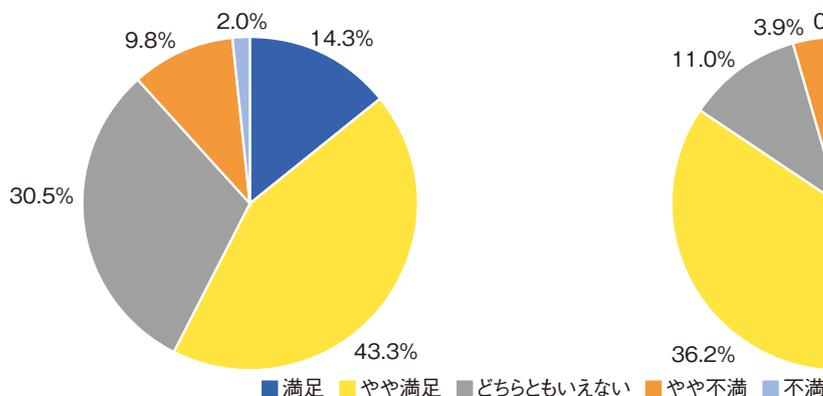
施設面については「病室の清潔さ」「病室の室温」等関連項目で70%～78%の高い評価をいただいておりますが、様々なご意見もありましたので改善に努めて参ります。

接遇面については、医師・看護師共に9割の方が「良い」と評価いただきましたが、一部改善のご意見もいただいております。安心・安楽にご入院いただけますよう努めて参ります。

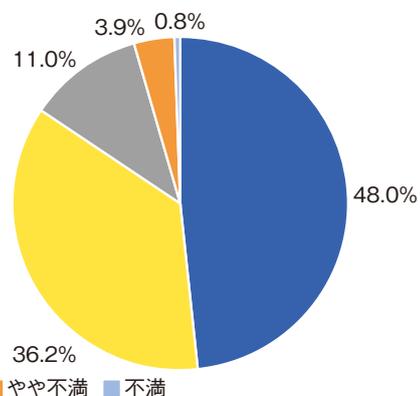
サービス面については「食事の内容（献立）」において他の項目より悪い評価となりましたが、健康面に気を遣っている分、味や量などの不満となっているかと思われ、ご理解の程よろしく申し上げます。

「総合評価」は、8割以上の方より「満足」と評価いただき、昨年度より9%上昇しておりました。患者さんが安心・安楽に過ごしていただけますよう入院環境を整えるため引き続き努力して参ります。

外来総合満足度



入院総合満足度



患者さん、ご家族の皆様から頂きましたご意見を職員と共有し、地域の皆様が安心して来院しご利用いただけますよう職員一同精進して参ります。励ましや感謝の言葉は、職員にとって大きな励みとなっております。今後もより一層、患者サービス向上に取り組んで参ります。調査にご協力いただきました皆様、ご協力誠にありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

# 第26回 京都中部総合医療センター学術集会

のむらてつや  
学術集会実行委員会委員長・循環器内科部長 野村 哲矢

2024年8月24日に、毎年恒例の第26回 京都中部総合医療センター学術集会を開催いたしました。3年余りに及んだコロナ禍の時代にすっかり定着したWeb開催から、昨年は4年ぶりの現地開催の復活を果たし、今年には2019年以来実に5年ぶりとなる外部講師を招いての特別講演を企画するなど、5月の連休明けから準備委員会を立ち上げて入念に準備を重ねてまいりました。

前半の一般演題の部では、診療部から2題、医療技術職から3題、看護部から2題の症例提示や取り組んでいる課題の発表を行い、さらに事務部門から報告形式の発表を1題用意しました。いずれもよく練られた内容であり、日々の臨床業務に傾ける演者の熱意を、ひしひしと感ずることができるものばかりでした。

そして本会の目玉企画として後半の特別講演では、全国自治体病院協議会名誉会長、全国公私病院連盟会長、特定非営利法人 地域医療・介護研究会 JAPAN 会長の「<sup>へんみ きみお</sup>邊見 公雄先生」に遠路はるばるご足労いただき、「<sup>いのち</sup>生命輝かそう京都中部総合医療センターの仲間達 ～地域医療包括医療・ケアの時代に～」と題したご講演を賜りました。邊見先生は京都大学医学部ご出身の外科医で、大和高田市立病院、京都大学医学部附属病院を経て兵庫県の赤穂市民病院外科に赴任され、そこで病院長を長らく務められるとともに、全国自治体病院協議会の会長や中央社会保険医療協議会の委員など、国・自治体等の要職も多数兼任してこられました。講演内容は非常に多岐にわたり、コロナ禍を経て地域医療に求められる持続可能な医療供給体制の構築に向けての提言に始まり、公的病院における効率的運営・財政の健全化・働き方改革に向けての様々な人材確保・医療デジタルトランスフォーメーションの活用推進といった、正に当院が直面しているテーマに即して今後の展望を熱く語られました。そこから全職員参加のチーム医療の重要性に話は進み、組織・職種・立場の垣根を越えて、自由な心かつ対等な立場で、一つの目標に向かって全人的医療を目指していくその根底には、邊見先生が長らく院長を務められた赤穂市民病院の院是でもある「<sup>じよ</sup>恕（思いやり）」の心が脈打ちます。講演の最後には、チーム医療の実践を通して我々が目指すべき住民中心の病院づくりのキーワードとして、Hospital of the citizen, by the citizen, for the citizen（住民の住民による住民のための病院）を掲げていただき、地域医療の中心として、住民の命と健康を守るという非常に大きな使命を担っている、我々自治体病院のあるべき姿を改めてお示しいただきました。

邊見先生の熱い語り口調に予定していた時間も大幅に超過しましたが、盛会のうちに会を終了することができ、運営スタッフ一同心より厚く御礼申し上げます。邊見先生の講演を拝聴し、参加した計92名の院内外の関係者は皆一様に、自身に課された職責の大きさに改めて思いを馳せたことと思います。奇しくもこの6月に当院は全国で唯一「自治体立優良病院総務大臣表彰」を受賞する栄誉に浴しました。他の病院の模範となる経営努力、地域医療に果たしている役割が高く評価された結果ではありますが、我々病院職員一同はこの授賞に甘んじることなく、引き続き地域の拠点病院としての責務を全うできるよう、今後の診療業務にますます精進していきたいと、今回の学術集会を通じて心を新たにしました。



邊見先生による力強い講演



## 初めての実習での学び

1年生 うえだ しょうま 植田 正真

初めての实習は患者さんとのコミュニケーションと環境整備でした。患者さんとのコミュニケーションはとても緊張し、自分一人では患者さんと何を話して良いか分からず戸惑い、会話を上手く続けることが難しかったです。一方で、ペアを組んだ同級生は聞き方や言葉の返し方がとても上手く、スムーズに患者さんとコミュニケーションをとっていました。同級生から学ぶことも多く、助けてもらいながら会話を続けることができました。

今後は学生同士で学び合って、患者さんにより良い看護を提供できるようこれからも頑張っていきたいです。

## 前期臨地実習での学び

2年生 せき わかな 関 若菜

2年生の前期臨地実習では、受け持ち患者さんの看護診断から行動計画を立案し援助を行いました。援助を実施する中で、言葉からの情報だけに頼ってはいないかなど指導者からの助言を頂き、患者さんに必要な看護について必死に考えた期間となりました。日々考えることによって、患者さんの表情や動作から言葉に表れない思いや状態に気付く、感じるといった「見る」ことの大切さを学ぶことができました。

患者さんのニーズはどこにあるのかを常に考え、後期の臨地実習も頑張りたいと思います。

## 後期臨地実習に向けて

3年生 ふじもと だいち 藤本 大智

5月から領域別実習が始まり、早いもので8月から後半の実習が始まりました。前半の実習では不安と緊張で上手くいかないこともありましたが、実習で得た経験からの学びを振り返り自己課題を見つけることができました。

後半の実習では、援助の目標を患者さんに応じた具体的な内容になるよう設定し、個別性のある看護になるよう考え実施できるように努めていきたいです。また、実習中に頂いた助言や指導を理解し、学びに繋げ成長していきたいです。



# 当院で出産しませんか？

なかむら まさこ  
第一病棟 4階看護師長 中村 雅子

出産はお母さんにとっても、ご家族にとっても、待ちに待った大切な瞬間です。嬉しい反面、不安もあると思います。また出産後の育児にも周りの方の協力が必要となります。

地域周産期母子医療センターに指定されている当院では、妊娠から出産、そして退院後も安心して子育てしていただけるよう、外来と病棟で医師や助産師、看護師が連携し、サポートを行っています。

## 外来

外来には、助産師が常駐しています。妊婦検診の際には、毎回不安な気持ちを丁寧に聞き、個別にご相談に乗ります。出産に関することだけでなく、育児のこと、体の変化のことなど、なんでもお気軽にご相談ください。また、立ち会い出産を希望されるご夫婦には、マタニティクラス（パパママ教室）への参加を勧めています。妊娠中のからだの変化や、出産のメカニズム、育児の基礎知識などを学んでいただくことで、安心して出産を迎えることができます。



## 入院

出産後、入院中のスケジュールをお渡しし、丁寧に説明いたします。授乳や沐浴の指導はもちろん、産前産後の食事管理も栄養士が栄養バランスを考えた、見た目にも華やかなメニューをご用意しています。夕食後には夜食も提供しています。



## 出産後のサポート

出産後も、母乳育児の相談や、新生児のケアなど、経験豊富な助産師が丁寧にサポートします。退院後も、母乳外来をいつでもご利用いただけます。母乳育児に関するお悩みやご質問は、お気軽にご相談ください。

## 産後うつ病への対応

全国的な統計では、産後10～15%の女性が産後うつ病を発症するといわれています。当院では、産後2週間の検診時に専用の問診票を用いて、産後うつ病の早期発見に努めています。必要に応じて、心理カウンセリングの紹介や地域の保健センターとの連携など、様々なサポートを行います。

当院では、助産師や看護師が毎回、妊婦さん一人ひとりと丁寧な対話を行い、安心して出産を迎えていただけるよう、さまざまな取り組みを行っています。初めての出産で不安な方も、どうぞご安心ください。ぜひ一度、当院にご相談ください。

# 健診センターのご案内

健診センターは当院本館横の健診管理棟の1階にあります。当センターでは、人間ドック・協会けんぽ生活習慣病予防健診・法定健診など、各種コースをご用意しています。

病気にかかり検査や治療が必要になると、身体的・時間的・経済的に大きな負担がかかります。健診を受けることで自分の健康状態を確認し、病気の予防・早期発見・早期治療を行いましょう。



ゆったりとした待合

## 健診の種類・料金

### ■人間ドック 45,100円 (税込)

見つけやすい病気 がん、心筋梗塞、肝炎、痛風、糖尿病、など

#### オプション検査 (税込)

乳がん検査 (マンモグラフィ撮影)	3,300円	腫瘍マーカー検査	7,150円
子宮がん検査 (産婦人科内診・細胞診)	3,300円	アレルギー検査	3,500円より
前立腺がん検査 (前立腺特異抗原検査)	3,300円	脳MRI検査	25,300円
骨密度測定	3,300円	全身MRI検査	33,000円
ピロリ菌検査	3,300円		

### ■協会けんぽ生活習慣病予防健診 (協会けんぽ被保険者の方のみ) 一般健診 3,400円 (税込)

見つけやすい病気 糖尿病・高血圧症・脂質異常症・心筋梗塞・脳梗塞などの生活習慣病。

食習慣・運動習慣・休養・喫煙・飲酒等の生活習慣が原因とされています。プラス2,200円(税込)で胃のバリウム検査から胃カメラに変更することが可能です。対象の方は付加健診・乳がん検診・子宮頸がん検診・肝炎ウイルス検査も受診することが可能です(費用は別途必要)。

### ■その他の健診

労働安全衛生法に基づく健診をご用意しています。

- 定期健康診断および雇入時健康診断 9,548円～14,124円 (税込)  
※検査項目により金額が異なります。
- 特殊健康診断 (有機溶剤健康診断、じん肺健康診断等)

※各健診の詳細については、当院のホームページをご確認ください。  
(右の二次元コードよりアクセスできます。)



## 受診申込について

毎年2月～4月は比較的予約に余裕がありますので、ぜひご検討ください。

- ①お電話でお申し込みください。

TEL 0771-42-2566 (健診センター)

受付時間: 平日午前9時から午後4時まで【年末年始(12/9～1/3)を除く】

- ②人間ドック・協会けんぽ生活習慣病予防健診はWebからのお申し込みも可能です。  
当院ホームページからお申し込みください。

## 「要精密検査」や「再検査」となったら

ご自身の健康のため、ぜひ当院での二次健診をご検討ください。詳細は対象の方にお渡しする用紙をご確認ください。各診療科の専門医により検査・治療を行わせていただきます。健診結果を持参いただければ、初診時選定療養費(7,500円:税込)は不要です。

# かかりつけ医を持ちましょう

## かかりつけ医とは…

普段の健康状態を把握してくれる  
もっとも身近な「主治医」のことです。  
具合が悪くなったり、困ったときにはいちばんに  
受診できる「かかりつけ医」を持ちましょう。



## かかりつけ医についてのご相談は

総合受付①窓口

- 地域医療連携室 / 電話 0771-42-5061 (直通)
- 受付時間 / 平日 8:30 ~ 17:15

## 看護職員募集



一緒に働く仲間、大募集  
新しいこと、極めること、  
仲間とともに。

看護師寮利用できます。(正職員)  
月額 4,000 円 (税込)



〒629-0197

京都府南丹市八木町八木上野 25 番地  
京都中部総合医療センター総務課人事係  
TEL 0771-42-2510(代)まで

詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.kyoto-chubumedc.or.jp/nurse/>



## 編集後記

猛暑の夏が終わり秋の涼しさを感じる季節となりました。先日、医療職を目指す人口減少の問題がニュースで流れ「私の老後は誰が看ってくれるの?」と不安になりましたが、今年の地域医療教育推進事業では多くの医学生・看護学生が南丹医療圏の地域実習に参加されました。地域医療を支える未来の医師・看護師達の学びの発表を聞き、不安なく老後が迎えられるそうだと感じました。日ごとに秋が深まってまいります皆様におかれましてはどうぞお健やかに過ごしてください。

広報委員会 M.A.

病院スタッフはマスクとゴーグルを着用して業務を行っておりますが、撮影のために一時的に外している場合があります。ご了承下さい。

## MAP

